

発行日：2023年3月31日

リバーセル株式会社

報道関係者各位

「汎用性他家T細胞を技術基盤とした細胞治療事業」推進における
次世代開発に向けた戦略的提携基本契約の締結

リバーセル株式会社（代表取締役社長兼 CEO：梶川 益紀、所在地：京都府京都市／以下「リバーセル」）は、リバーセルの持つ汎用性他家T細胞^{*1}を技術基盤とした次世代の免疫細胞療法の開発を目指し、合同会社 H.U.グループ中央研究所（職務執行者：小見和也、所在地：東京都あきる野市／以下「H.U.中央研究所」）と戦略的提携基本契約を2023年4月1日に締結します。

近年、患者自身の細胞を使う「自家免疫細胞療法」^{*2}が一部のがんに効果を発揮していますが、「その患者にしか使えない」という課題に加え「患者の身体への負担が大きい」「治療までの時間がかかる」「コストが高い」「品質が不安定」等の問題があります。また、感染症に対しては迅速な治療が求められるため「自家免疫細胞療法」では間に合わず、細胞療法という方法すら存在しません。リバーセルは、このような社会課題を解決すべく、全く新しい治療法「他家免疫細胞療法」の提供を目指します。具体的には、多能性幹細胞から、がんやウイルスを特異的に認識して殺傷するキラーT細胞^{*3}を再生し、治療に用いる方法です。

H.U.中央研究所は、H.U.グループ内の基礎研究機能を集約し、新たなシーズから中長期的成長ドライバーとなる製品・サービスを創出することを目的として、2017年7月に設立されました。主に、①革新的分析プラットフォーム、②医療イノベーション基盤技術、③医療情報活用の3セグメントを中心に、外部研究機関、ベンチャー、または異業種などとのオープンイノベーションを積極的に推進しています。スピーディーな開発・評価を理念とし、検査・解析だけに留まらず、細胞治療や再生医療などの新しい産業の創出、治療の将来に向けた新規の治療モダリティの確立、ヘルスケア領域での価値創出の主導を目指しています。

今回、リバーセルが臨床応用を目指して開発している「汎用性他家 T 細胞療法」技術に、次世代の機能を付加させるべく、H.U.中央研究所とリバーセルは共同研究を開始します。近い将来、がん免疫療法の主流となり得る「他家免疫細胞療法」ですが、技術の進展とともにより高い機能を求められ、それに対応しなければいずれ技術が陳腐化していくということは、バイオテクノロジーの歴史が物語っています。

H.U.中央研究所とリバーセルの戦略的提携により、「他家免疫細胞療法」の次世代のニーズを先取りし、研究開発を加速させることで、いち早く「他家免疫細胞療法」を社会実装して患者へ届けます。そして将来的にはさらに高機能な「他家免疫細胞療法」を患者へ届けることを目指しています。

<専門用語解説>

*1 他家 T 細胞：iPS 細胞や ES 細胞に代表される多能性幹細胞（患者自身以外の他人由来の細胞）を材料として再生された T 細胞で、治療に用いられる。

*2 自家免疫細胞療法：患者自身の細胞を採取し、加工・増殖して患者へ戻す細胞療法。

*3 キラー T 細胞：体内で異種の細胞（がん細胞など）やウイルス、細菌を特異的に認識し、攻撃して排除する免疫をつかさどる細胞の一種。他家キラー T 細胞は、iPS 細胞や ES 細胞などの多能性幹細胞から、特殊な培養方法により再生したキラー T 細胞を指す。

■ 合同会社 H.U.グループ中央研究所について

下記 URL を参照ください

<https://www.hugp.com/research/>

■ 照会先

<リバーセル株式会社>

リバーセル株式会社

〒602-0841 京都府京都市上京区河原町通今出川下ル梶井町 448 番地 5

クリエイションコア京都御車 311 室

電話：075-212-3770

<https://rebirthel.com/#contact>